

忍び寄るネットいじめ

無法地帯の子どもたち

◎ 1 ◎

2008.9.29

安川 雅史

携帯電話でインターネットが使えるようになったのは、NTTドコモが「iモード」を始めた一九九九年以降のこと。電子メールの送受信も可能になり、急速に普及していきました。通話主体だった携帯電話は、文字コミュニケーションの道具である「ケータイ」に進化したのです。

右手のはしで食事しながら、左手は休みなくメールを打つ。ポリ袋に入れたケータイを浴室に持ち込み、入浴中も送受信を気にする。机の上にケータイ

がないと落ち着かず、勉強が手に付かない。そんな子どもも珍しくありません。

これに飛び付いたのが中高生でした。数年後、一定の料金でメールなどのネット機能が

使い放題になる「パケット定額制」が導入されると、ケータイが常に気になり、片時も手放せない子どもが増えていきました。ケータイに「縛られる」ようになったのです。

右手のはしで食事しながら、左手は休みなくメールを打つ。ポリ袋に入れたケータイを浴室に持ち込み、入浴中も送受信を気にする。机の上にケータイ

がないと落ち着かず、勉強が手に付かない。そんな子どもも珍しくありません。

そこまで固執する理由を聞くと、多くの子どもは「友だちからメールがきたら、すぐ返さないと無視していい」と言います。子どもたちの間には「友だちからメールがきたら、すぐ返さないと無視していい」と言います。子どもたちの間には「友だちからメールがきたら、すぐ返さないと無視していい」と言います。

メールに縛られる中高生

無視されるのが不安



やすかわ・まさし 1965年北海道生まれ。高校や通信制高校サポートの教師を経て昨年退職。インターネットを活用し、いじめなど子どもや家族を支援している。心理学博士。



イラスト ふじた としお

るようです。受け取ったメールには五分以内に返信しなくてはならないというルールも、その一つ。五分以内に返信がなかった子どもは、それが偶然のできごとでも「無視されているのかも」と不安に駆られてしまうのです。

自分のメールが無視されないように、「ところで今、何してる？」といった質問を末尾に付け加えて送信する子どももいます。受信した側は、無視していいと示すため即座に返信するのですが、その末尾にも質問があります。こうして、どうでもいい「会話」が際限なく続き、お互いに気

が休まらないのです。

この結果、メールを打つが遅く、的確な絵文字を素早く選んで使えない子どもが、知らぬ間に攻撃対象とされ、掲示板形式の「学校裏サイト」に悪口を書き込まれ、嫌がらせのメールに悩む事態が発生しています。

「氏ね（『死ね』の当て字）」「キモい」「うざい」と書かれたメールにおびえ、不登校になるケースも。そんな子どもからの相談事例を基に、急増する「ネットいじめ」の実情をお伝えします。

（全国webカウンセリング協議会理事 長）

（日曜日に掲載）